

INFORMATION

プラネタリウム

土星をさぐる／今夜の星空

ガリレオに始まる土星の観測の歴史と、現在分かっている土星の姿、アメリカのカッシニ探査機による土星探査計画などを紹介します。

平日	17:30
冬休み平日	11:30 14:30 17:30
土曜	11:30 14:30 17:30
祝日	11:30 14:30

MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

土曜の夜だけの特別プログラム。最新鋭プラネタリウムによる満天の星空と心地良いサウンド、そして宇宙の話題が織りなすファンタジックなひとときをお楽しみください。

土曜	19:00
10月30日	11月6・13・27日
12月4・11・21・22・24・25日	
1月8・29日に投映	

(12月21～25日はクリスマス・スペシャルです)

全天周映画

トゥ・ザ・リミット

前人未到の極限に挑む。そのとき、体内では何が起ころのか。人間の素晴らしさを感動的に描いた、大型映像の名作中の名作です。

平日	16:00 19:00
冬休み平日	10:00 13:00 16:00 19:00
土日祝	10:00 13:00 16:00

■料金 (入館料を含みます)

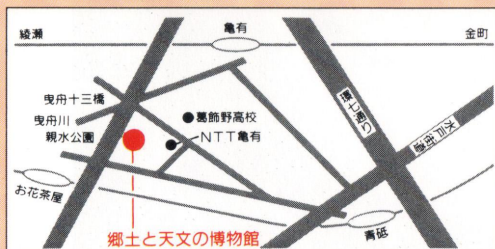
大人400円／小・中学生150円／幼児50円

■休館日

月曜日(祝日は開館)／第2・4火曜日
1月12日(水)～14日(金)のプラネタリウム・全天周映画は番組入れ替えのため休演。

■上映15分前までにご来館ください。

交通のご案内



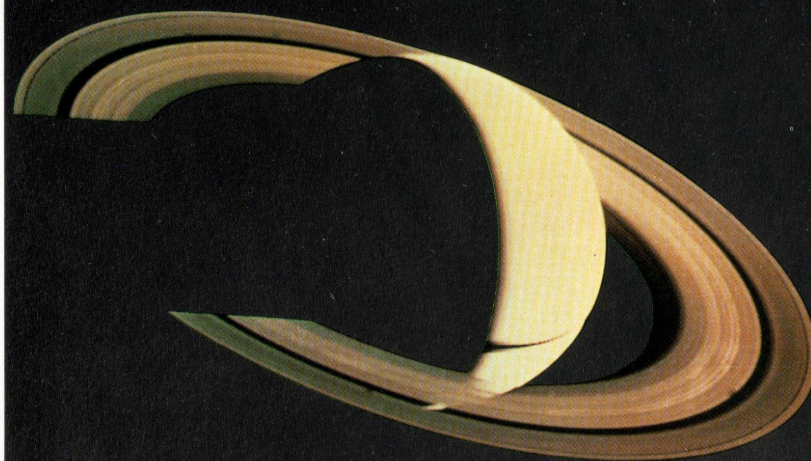
- 京成線 [お花茶屋] から8分
- JR常磐線 [亀有] から25分
- 京成バス (新小53亀有一新小岩) [博物館前] 下車すぐ
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101



三日月型の土星 (ボイジャー1号)

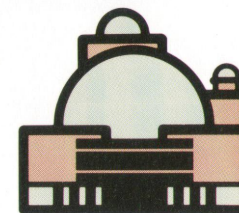
From the slide set "THE PLANETARY SYSTEM

by the Astronomical Society of the Pacific, 390 Ashton Ave., San Francisco, CA 94112, USA

PLANETARIUM

土星をさぐる／今夜の星空

Vol. 10 1993-94・秋-冬



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

1993年・秋の星空より

みずがめ座に土星がやってくる。



■神にさらわれた美少年

秋の南の空でただひとつの1等星・フォーマルハウト。その上には明るい星はないが、みずがめ座はここに隠れている。

目印になるのは、フォーマルハウトのやや上で4つの星がつくる三つ矢の形。これが水瓶をあらわし、そこからフォーマルハウトめがけて暗い星々が連なって、水流をつくっている。

ギリシャ神話によると、この少年はトロイヤの王子・ガニメデス。彼に目をとめた大神ゼウスは、大きな鷲に化け、彼を天上へ連れ去ってしまう。その後、ガニメデスは神々の宴の席で酌をすることになったという。

このあたりには、みずがめ座を中心に、水に関連する星空が続いている。古代人はこのあたりの星空を「海」と呼んでいた。

■みずがめ座で消える土星の輪

ゆっくりとやぎ座の中を移動してきた土星が、1994年、みずがめ座へ入る。約30年で公転している土星は、地球から見ると30年で星座をひと巡りするように見える。

これから1996年までは、土星はみずがめ座の中で輝く。そして95年から96年にかけて、土星の輪が真横になり一時的に見えなくなる現象が見られるはずだ。

昔の天文学者を悩ませ続けた土星。 カッシニ探査機はその素顔に挑む。

今年の秋から冬にかけて、宵の空に土星が輝いています。望遠鏡を通して見ると、環をまとった姿がとても幻想的です。

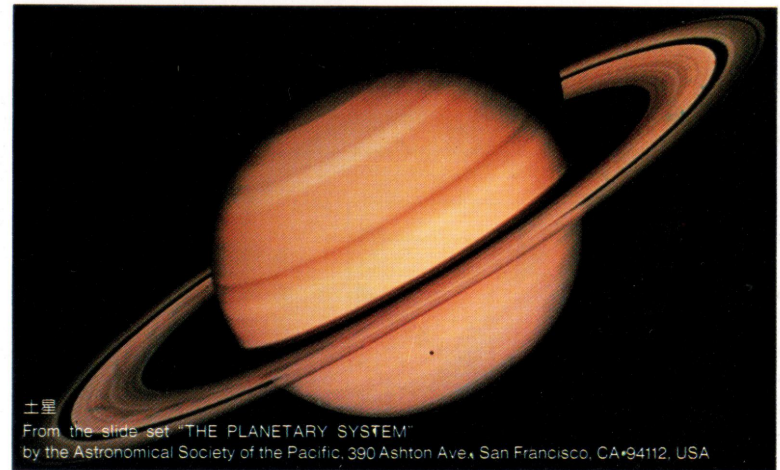
しかし、望遠鏡が発明された直後は、これが環であるとは誰も思いませんでした。あのガリレオ・ガリレイも、1610年に土星を観察しましたが、まわりに見えるのは取っ手のようなものだと考えたようです。その後の多くの人々も、この星のまわりにある奇妙なものが何であるか見当がつかず、途方に暮れていました。それが平らで薄い環であるとわかったのは1655年、オランダのホイヘンスでした。

さらに1675年、カッシニは土星の環に細いすき間があることを発見しました。これをカッシニの空隙といい、環はこのすき間をはさんで内側のAリング、外側のBリングの2つに大きく分けられると考えられてきました。

土星の環の詳しい素顔を私たちに教えてくれたのは、1980年・81年に次々と土星に接近したアメリカの惑星探査機・ボイジャー1号と2号でした。

ボイジャーの観測によって、土星の環の正体は無数の氷の塊が作っている連続した細い環の集まりであることがわかったのです。新たな環も確認され、AリングからGリングまで、7重構造になっていることがわかりました。

現在、アメリカでは新しいカッシニ探査機による土星探査計画を進めています。計画が順調に行けば1997年に打ち上げられ、2004年に土星に接近します。土星とすれ違いながら観測したボイジャーと違い、カッシニは約3年間にわたって土星をめぐるながら詳しい観測を行う予定です。21世紀、カッシニは土星から私たちに何を見せてくれるのか、今から楽しみです。



土星
From the slide set "THE PLANETARY SYSTEM"
by the Astronomical Society of the Pacific, 390 Ashton Ave., San Francisco, CA 94112, USA

■もっと詳しく知りたい方は、こんな本を読んでみてはどうだろうか。

- ・「図説 われらの太陽系 7 土星のすべて」 山本哲生・小林行泰 訳 朝倉書店
- ・「おはなし天文学・太陽系発見の証明」 斎田 博 地人書館